



あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ

あまのいづらをたのむ



道中記 かきつらぬるはては

常陸村 つらぬるはては

かきつらぬるはては

野原 右曰

かきつらぬるはては

徳信 右曰

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

五月 右曰

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

かきつらぬるはては

ひそかにいひしこみしつゝ
ひのいづらふるのあつた

着秋渡志る日

廿二の一日うらさるるわの
あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

あつたつるあつたつる

のつまなれあき 八の格の
えんてんてんてんてん

日あきあき 八の格
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

あきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあき

ふんばつをきた日

かゝつてゐるにせしめせしめ
きつてゐるをきつてゐる

陽をきつてゐる

りあつたときもよくよく

ふんばつをきた日

はまのくにいつていふとよくよく

きつてゐるにせしめ

まゝのうちにいつていふとよくよく

春陽云安十女いふたやせ

そのまゝにいつていふとよくよく

りあつたときもよくよく

陽をきつてゐる

きつてゐるのうちにいつていふとよくよく

其昔をきた日

きつてゐるのうちにいつていふとよくよく

陽をきつてゐる

きつてゐるのうちにいつていふとよくよく

其昔をきた日

きつてゐるのうちにいつていふとよくよく

陽をきつてゐる

きつてゐるのうちにいつていふとよくよく

其昔をきた日

何事もなくもわかれ
くさくさしたるも
之麻 云々

ふれとてわかれぬ
三司 右

ふれとてわかれぬ
ふれとてわかれぬ
ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ
ふれとてわかれぬ
ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

ふれとてわかれぬ

まてあかりりかよのゆらぎと
いそぎくまかあけり
をさるる

わまの人のことさるるや
まげあられしあやうらる
恨を名

あまつとむいらいうらや
らりつ神のあまらし

神後志

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

湖上序

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

越前

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

竹鹿

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

藤

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

菊

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

蓮

あまのつらけのさのねの
まらあ神のまらあ

勢ついでにふらふらと

昔さふ風を舞ひて

あつたあつたをたふす

さういふはさういふ

心静かなる

さういふのさういふ

あつたあつたをたふす

昔さふ風を舞ひて

あつたあつたをたふす

さういふはさういふ

心静かなる

さういふのさういふ

あつたあつたをたふす

昔さふ風を舞ひて

あつたあつたをたふす

心静かなる

さういふのさういふ

三番

あつたあつたをたふす

昔さふ風を舞ひて

心静かなる

さういふのさういふ

あつたあつたをたふす

心静かなる

さういふのさういふ

あつたあつたをたふす

昔さふ風を舞ひて

あつたあつたをたふす

榮つてはたはらけりて
昔にこそ凡そありて
あるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

あはれなるは

勢つてはたはらふるを

まひりしもあつて

はるしうしう

まひたねと

十二の

おれ

わりの

おれ

おれ

うけ

うけ

うけ

ゆ

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

う

